



EdLog クリップ採点支援システム™  
エドログ

ひまわりエディション

ひまわり  
エディションの  
機能詳細は  
こちら！



立命館小学校

## 独占インタビュー

採点支援システムEdLog(エドログ)を導入！  
グローバル人材の育成に力を入れる立命館小学校に聞く、  
その経緯と効果とは？

株式会社光文書院と株式会社EdLog(エドログ)がサービスを提供する採点システム「EdLogクリップ採点支援システム ひまわりエディション」(以下、EdLog)。光文書院の単元テストを採択すると利用いただける無料の採点システムで、スキャンしたテストデータを小設問ごとに一覧表示することでスピーディーな採点を可能にし、先生方の校務負担削減にもつながる便利なツールです。

今回は、本サービスをご利用いただいている立命館小学校にお伺いし、学校の教育目標をはじめ、それに伴うEdLog導入の経緯などについて、校長の堀江先生、ICTご担当の正頭先生、山田先生にお話を聞きました。

### 理想の学校像の実現に向けて、 採点システムの導入で時間を創出

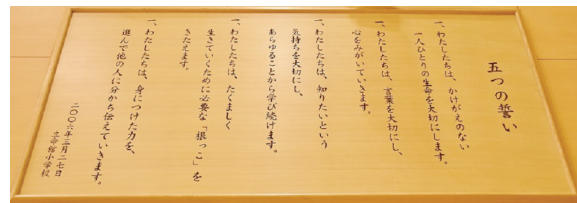
まずお話を聞いたのは、2021年度から専属で立命館小学校の校長に着任された堀江先生です。これまで小学校だけでなく、立命館学園の中学校・高等学校、大学など、子どもたちの成長にさまざまな立場から携わられてきた堀江先生に、教育目標の存在と、EdLog導入の経緯について質問しました。

—— 小学校の教育目標を教えてください。

**堀江先生**：前提として、立命館は「立命館で学んだ子どもたちが、その学びを活かしてリーダーシップを発揮し、自分の生きていく世界を変えていける人間になりましょう」というメッセージを掲げています。そこで、中学校、高等学校、大学も含めて長い目で子どもの成長を見てきた、私自身の経験も踏まえつつ、2021年度からの小学校の学校経営方針を定めています。

具体的には、どんな子どもを育てていきたいか、育成人材像という形で、

- ①「五つの誓い」を体現する子ども
- ②自律的な学習者・生活者としての自分に肯定感を持ち、自分の成長に期待と希望を抱く子ども
- ③グローバルな視野での人権と社会貢献に対する高い意識を持ち、利他の心を自生する子どもの3つを挙げています。



#### ▲五つの誓い

立命館が掲げるグローバルな社会貢献意識はもちろん、学習者としてだけでなく、これから生きていく人間としての自分への自信や、小学校6年間の後も続く、自分の成長への期待をきちんともってもらいたいという思いを込めました。

また、理想の学校像として掲げているのは、

- 子ども、保護者、教職員が、信頼関係の中で共に学び合い成長し合える学校
- それぞれの子どもの成長のあり方を肯定し、長い目で見守ることができる学校
- 挑戦を応援し、失敗から学ぶ経験を大切にしている学校の3つです。

基礎学力をしっかり身につけることは大前提ですが、そのうえでそれぞれが失敗してもよいからやりたい学びにチャレンジしていく経験を大事にしようということ、2021年度は特に強調して取り組んでいます。



▲校長の堀江先生



—— こういった目標がある中で、EdLogを導入されたのはどういった経緯があったのでしょうか。

**堀江先生**：学園や小学校として目指している子どもたちの姿や学校の姿に、どうしたら近づけるかという、まず、近づくための取り組みを進める時間を作り出すことが必要です。やはり先生方にとっていちばん大事な仕事は子どもと向き合う時間ですので、そこをどれだけ大事にできるか、創出できるかが重要なポイントになってきます。その時間をつくるために、働き方改革含め、優先順位を付けたうえで、無駄なものは省き、機械に任せられるものは任せていきたいと思います。そのような流れの中で、EdLogも、よりよい学校の姿を目指すための時間をつくる一つ的手段として導入しました。



▶ EdLog導入の目的は、子どもたちと向き合う時間の創出

単元テストで培った知識を探究的な学びへ。削減した時間で何をすることがモチベーションに

続いては、立命館小学校でICT科をご担当され、単元テストやEdlogの導入・活用を進めていらっしゃる正頭先生にお話を聞きました。

—— 立命館小学校におけるテストの位置づけや、単元テスト導入の経緯について教えてください。

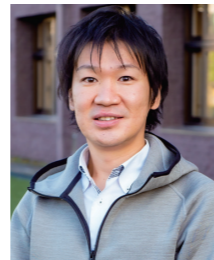
**正頭先生**：僕らの中では、学習には「インプット（知識を得る）→インテイク（定着させる）→アウトプット（活用する）」の3段階のプロセスがあるととらえています。

2019年度までは、単元テストから中間・期末テストまで全て先生の自作で実施していました。しかし、働き方改革の観点で見たときに、テストは厳密・厳正でなければならず、先生が自作するのはとても負担であるという議論が出ました。今までのインテイクの確認の場だけで十分なのか、本当はその先のアウトプットが大事ではな

いのか、という話もありました。

そこで、1回あたりのテストのボリューム感を軽くし回数を増やしつつも、先生方の負担は軽減できるように、ということで、採点システムを提供しているEdLog社のサービスと連携している光文書院のテストを採択することになりました。

EdLogを活用することで時間が短縮できるわけなのですが、「ではその浮いた時間で何をしようか」という視点で、先生方自身をモチベートできるかも大事だと思っています。EdLogのような採点システムに限らず、学校で新たなICT教材などを導入しようとしている先生の中には、他の先生からの反応が芳しくなく、苦勞されている方もいらっしゃると思います。そういった場合には、その導入によって空く時間で、何ができるようになるかまで併せてお伝えしてみるのも一つの方法かもしれません。

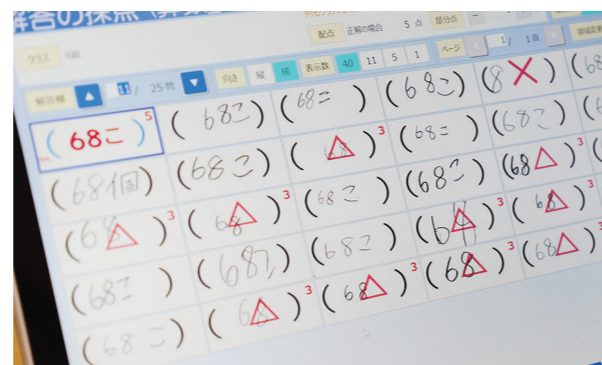


▲ICT科担当の正頭先生

—— 採点システムを使うことで、児童の見取り方に変化はありましたか。

**正頭先生**：丸つけをする際に各児童の名前を非表示にできるため、余計なバイアス（先入観）がかなり取り除かれます。例えば名前が見えていて、普段は満点のAさんにバツがついたとき、本当？と気になって止まって問題を細かく見て無駄な時間を使ってしまったり、最近勉強をがんばっているBくんのテスト用紙を先に探して丸つけてみたり…。でもバラつきのない効率的な採点のためには、そういう作業は最後にまとめてすることにして、丸つけは止まらずに済ませるとするのがポイントだと思っています。

ですので、システムを使うことで子どもの名前を見えないようにできるのはよいですね。また、EdLogは最後に



▲EdLogの実際の採点画面。子どもの名前を載せないことで先入観が除かれ、効率化につながる。

正答率を出してくれるので、分析に時間を割くことができます。

空いた時間は授業準備や子どもの見取りに活用。システム浸透へのさらなる期待

最後に、正頭先生と同じくICTを担当されている山田先生にも、普段どのようにEdLogを活用されているか、使用感や今後の展望について教えていただきました。

—— 単元テストと採点システムEdLogをご利用いただいてみて、いかがでしょうか。

**山田先生**：1年生は全体的問題数が少ないのでEdLogは使っていないのですが、各学年の担任はある程度使える状況なので、テストの採点にはEdLogを使うというのが浸透しつつあります。先日は分散採点（丸つけの作業を複数人で分担できる機能）を初めて使ってみました。感動しました。あれは本当に早いです。



▲EdLogで採点をする様子

EdLogの導入によって、テストの採点は15～20分で終わるようになったので、テストを実施したその日のうちに十分に終わらせられます。しかも、転記もしなくてよいですね。以前公立の小学校で勤務していた際は、テストの実施から返却までに数日空いてしまう日もあり、転記にいちばん時間がかかっていました。

でも今では点数が間違いないかの確認も一切いらないうえ、データのバックアップもできるのでありがたいです。子どもにとって、テストがいつ返されるかというのは、一つのモチベーションになるので、実施から返却まで待たせることがなくなったのもよかったと思っています。

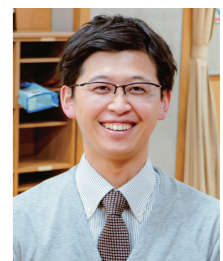
僕自身も、放課後に教材準備や授業準備をしたり、休み時間に子どもの様子をしっかりと見取れたり、子どもに声掛けできる素材を探しに行ったり、と空いた時間をか

なり活用して、時間をうまく使い分けることができるようになりました。

—— 今後の展望や計画している新しい使い方などがありましたら、教えてください。

**山田先生**：働き方改革の一環として、他の先生に採点をしてもらうことになった場合、採点基準さえ一律にしておけば、分散採点機能を使って負担なく一気に済ませてもらえることが可能だと思うので、そのような使い方も学校全体に提案していけるかなと思っています。もちろん、担任の先生が実際に採点したいという気持ちも理解はできるのですが、協力しながら互いに効果がより発揮できる方法で使っていきたいです。

また、手で丸つけをした方が早いという感覚もあると思うので、そこをどう採点システムの方へシフトしていかれるかも考えていきたいです。1日の中のどのタイミングでスキャンするかというような、具体的な時間の使い方までは浸透させられなかったのが、休み時間に1クラスずつスキャンしておくなど、他の先生方の使用具合を聞きながら相談・提案していきたいと思っています。



▲ICT教育部長の山田先生

## まとめ



校務負担の削減は、EdLogの大きな魅力の一つですが、「空く時間で何を成し遂げたか」、学校の先生方間で認識を合わせておくことで、採点システムの導入にもより意味が出てくるのだと思います。

取材にご協力いただいた先生方、誠にありがとうございました！

本誌に載せきれなかったインタビュー内容はWebに掲載中です！▶▶▶

